——学——会——記——事——

◎第 11 回理事会 (36.4.27) 出席者：沼田会長，外理事 7 名。 議事：1) 36 年度後任理事候補者につき審議。2) 36 年度総会に推挙の名誉員候補者につき審議。3) 工業高校土木教育研究会規約を決定。4) 夏期講習会に共催申出，日本地球物理学連合を後援の件承認。5) 北海道支部長 三島 勇氏，中部支部 吉川吉三氏，西部支部 田中寛二氏をそれぞれ委嘱。6) 会員入退会を承認。7) 会計報告，刊行物申込，各種委員会の報告。

◎各種委員会

(1) 土木賞主査幹事会 (36.3.27) 出席者：岡本主査，平嶋，千秋，大平，山本の各幹事。 事項：審査委員に審査を依頼し，3月27日までに回答を得た 42 編の意見書を整理の上，これを複写して各委員に発送の事務的処理をした。

(2) 東京湾輸送調査委員会 第 2 回幹事会 (36.3.28) 出席者：八十島副委員長，宮崎幹事長，外幹事 13 名。議事：1) 各部門の報告書の進捗状況の報告。2) 各部門の報告書は 4 月 5 日までに仕上げて提出を願うこと。3) 鉄道，港湾，道路の各部門報告書をつけて一応調査完了届を出すこと。4) 道路公団関係，陸運局関係，通産省関係，首都圏人口問題の報告書は 4 月 20 日までに提出願うこと。5) 東京湾周辺現地視察を 5 月 10 日頃行なうこと。

(3) 第 2 回土木賞委員会 (36.4.3) 出席者：沼田，米谷正副委員長，外委員 11 名，幹事 4 名。議事：1) 審査書の土木賞候補としての可否の判定を A, B, C に区分し，第 1 次選考を行なった。

A……審査員 2 名が可とするもの

B……審査員の判定が可と否とわかれたもの

C……審査員 2 名が否とするもの

2) 上記の区分による第 1 次選考の内容を再検討して第 2 次選考を行ない，予選に付すべき候補論文を決定した。3) 選考された候補論文に可否の意見を付して予選投票を 4 月 17 日までに行なうこととし，翌 18 日在京委員によりこれを開票することとした。

(4) 土木賞主査幹事会 (36.4.5) 出席者：星埜主査，平嶋，千秋両幹事。事項：予選に付すべき事務的処理。

(5) 土木賞在京委員会 (36.4.18) 出席者：沼田委員長，星埜，岡本両主査，扇田，高畑の両委員，平嶋，千秋，山本の各幹事。議事：1) 予選投票の開票の結果，委員過半数が可とする候補論文を決定した。2) 予選を通過した候補論文について，学会賞各 2 件，奨励賞各 3 件に 10 点を満点とする評点を付して 4 月25日までに決選投票をすることとした。

(6) 高校教育に関する打合会 (36.4.14) 出席者：沼田会長，八十島，林両理事，三宅小石川工業高校教諭。議事：1) 3 月 22 日 甲府工業高校 古屋校長外 4 名より工業高校の土木教育に関し学会の協力を得たいとの申出により，理事会は研究会を設けることとなった。2) この主旨により研究会の規約案（理事会議題）を作り理事会にはかることとした。

(7) 出版企画常任幹事会 (36.3.20) 出席者：佐藤委員長，八十島常任委員長，小池，三宅の両幹事。議事：1) 第 2 回常任幹事会の理事会申入れ事項につき検討。2) 各委員会委員長への出版企画委員会からの要望書について。3) その他。

(8) 第 10 回会誌編集委員会 (36.3.23) 出席者：斎藤，堺正副委員長，八十島編集理事，外委員 15 名および幹事。議事：1) 投稿原稿の審査報告，新規受付原稿審査委員の決定。2) 原稿依頼状況および新規依頼原稿について。3) 各部門の研究動向の処理について。4) 46巻 5 号会誌登載原稿について。5) 編集委員一部交代について。6) その他。

(9) 第 3 回出版企画常任委員会 (36.3.24) 出席者：佐藤委員長，外委員 5 名，三宅，小池の両常任幹事。議事：1) 第 1 回および第 2 回常任幹事会の協議事項を報告し検討の結果了承した。2) 新規出版計画につき検討した。3) 工業高等学校教科書の監修について検討。4) ワーク・ブックス類の出版について。5) その他。

(10) 第 11 回文献調査委員会 (36.4.4) 出席者：委員，幹事，会員有志 21 名。議事：1) 46巻 5 号登載抄録，目録の選定について。2) 東京近辺の各大学の紀要の取扱いについて。3) 委員の交代について。4) 委員会議事終了後専門家を呼んでパンチ・カードの説明を聞き次回より文献カードはすべてパンチ・カードに切りかえることにした。

(11) 第 11 回会誌編集小委員会 (36.4.7) 出席者：斎藤，堺正副委員長，谷田沢委員。議事：1) 46巻 4 号口絵写真を選定し，1 ページはカラー写真を登載することにした。2) 46巻 4 号ニュースの選定。3) 46巻 5 号登載原稿につき最終的打合せを行なった。

(12) 構造物耐震設計研究委員会 (36.3.22) 出席者：沼田委員長，外 13 名。議事：1) 委員会前に先日の日向灘地震の調査報告の概要につき松尾教授から報告があった。2) 35年度幹事会でまとめた報告書につき久保幹事長，小寺幹事より報告があり審議した。3) 来年度の研究方針などにつき打合わせた。

(13) 第 22 回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会 (36.3.30) 出席者：国分委員長，外 16 名。議事：1) PC技術協会より申出の建築学会のPC指針との，用語その他の統一につき先日建築学会で話し合った模様を野口委員が報告。2) 前回にひき続き，第 3 原案 26 条から 43 条まで総括的審議を行なった。

(14) 第 13 回フライ アッシュ小委員会 (36.3.31) 出席者：国分委員長，外 19 名。議事：第 12 回議事録を承認の上，次の各項につき審議した。1) 実施した試験の報告。2) 供試体の製作方法。3) 試験分担の検討。4) 試験の記録。5) 試験に必要な材料の処理。6) 試験計画書の作成。7) 中間報告について。8) 試験の必要経費。

(15) 第 23 回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会 (36.4.7) 出席者：国分委員長，外 13 名，議事：1) 建築学会とのPC指針の統一化についての第 2 回話し合いにつき野口委員より報告。2) 第 3 原案 43 条より最後まで総括的審議について。3) 箇条の配列，目次などにつき審議。4) 次期改訂につき話し合った。

(16) 第 46 回耐震工学委員会 (36.4.10) 出席者：那須委員長，外 7 名。議事：1) 地震工学セミナーについて。2) トレーニング センターについて。3) 国鉄構造物耐震設計研究委員会報告。4) 地震工学研究発表会について。5) 強震測定委員会について。6) その他。

(17) 第 5 回グラウト専門委員会 (36.4.11) 出席者：国分委員長，外 16 名。議事：1) PCグラウト強度についての共通試験結果の報告。2) 標準試験方法の審議。3) 指針（グラウト注入）1 条～14条審議。

(18) 第 1 回構造物耐震設計研究委員会幹事会 (36.4.20) 出席者：岡本副委員長，外 18 名。議事：1) 耐震設計要項を今年度の研究テーマにし，小寺幹事より総括的に説明。2) 上記要項についての意見（問題点，補足すべき点，訂正点，全体論）を 5 月 6 日までに提出すること。3) 池田幹事より；先日の日向灘地震における日向大東橋原間古太内橋梁の被害につき報告があった。

(19) 臨時耐震工学委員会 (36.4.25) 出席者：那須委員長，

外1名。議事：日本で開催する地震工学セミナーの日本人参加者およびオブザーバーの推薦について，

セミナーの日本人参加者およびオブザーバー

部門		参加者	オブザーバー	
地震	基礎研究	1	15	
	応用研究	1		
観測業務		1		
耐震構造	建築	1	15	7
	土木	①		7
	研究関係	1		1

1) 参加者○印1名については岡本（生研）教授を推薦。2) オブザーバーの土木関係としては次の8名推薦することになった。建設省(横田)，運輸省(石井)，国鉄(友永)，電研(畑野)，東大(最上)，京大(小西)，九大(松尾)，幹事(久保)。

(20) 昭和36年度夏期講習会開催準備打合せ会（36.4.10）出席者：沼田会長，林理事，国分正胤，友永和夫，田原保二(代栗原利栄)，渡辺和夫，村上永一(代松島岩夫)，樋口芳朗，野口功の各氏。

議事：題目および講師

1. PC設計施工 2. コンクリートおよび施工	東大教授	国分 正胤
3. PC鋼材	極東鋼弦コンクリート振興KK営業部長	宮崎 義成
4. プレストレッシングの管理	国鉄構造物設計事務所	野口 功
5. 設計	極東鋼弦コンクリート振興KK設計部長	猪股 俊司
6. 名田橋の架設について	徳島県土木部道路計画課	野口 秀英
7. グラウト	国鉄鉄道技術研究所構造物研究室	樋口 芳朗
8. 道路におけるPCの応用	日本道路公団総務室調査役	田原 保二
9. 鉄道におけるPCの応用	国鉄構造物設計事務所長	友永 和夫
10. 吉井川橋梁の設計施工上の問題点について	国鉄新幹線総局工事局設計課	小寺 皿郎
11. 名神高速道路におけるPC橋の計画，施工について	日本道路公団総務室	栗原 利栄
12. PC連続箱桁の設計施工について	首都高速道路公団工務部	宮崎 昭二

(21) 「建設業における一せい週休制の推進について」労働省労働基準局長より要綱の指示があった。

支部だより

◎北海道支部

（1） 第8回幹事会（36.3.23，35年度最終回）出席者：岩本支部長，大橋幹事長，余湖，森，小川，芳村，計良，浜田，森田各幹事。

（2） 第2回役員会（36.3.30，北海道電力）出席者：岩本支部長，大橋幹事長，梅木，小原，土谷，高田，小池，三島(代七田)，尾崎(代岸)，森(代計良)の各商議員，北郷（代渡辺）学会誌編集委員，伊福部支部奨励賞選考委員。

（3） 35年度支部総会（36.4.6，市民会館）

議事：

1) 35年度事務ならびに決算報告の承認。

2) 36年度新役員の選任（新役員は後記のとおり）。

3) 支部奨励賞の授与(授賞者論文，氏名は次のとおり)。

1. 扇形平版の曲げについて　芳村 仁

1. セルラーブロックによる防波堤　石倉健治

1. 護岸の水理学的特性，岸 力，小川芳昭，池田達哉

選考委員，真井耕象(北大工学部教授)，境 隆雄(室蘭工大教授)，伊福部宗夫（開発局土木試験所所長）

4) 36年度支部役員

支部長：三島 勇（北海道）

幹事長：七田 茂（北海道）

商議員：小田島政治(開発局)，尾崎 寿（国鉄），以上再任，和田清隆(開発局)，遊佐志活磨(開発局)，堂垣内尚弘，（開発局），尾崎 晃(北大)，松木憲司(室蘭工大)，高田実（西松建設），小原福二（大成建設）以上留任，伊福部宗夫（開発局），栗林 隆(開発局)，中村 稔(北海道)，白川秀一(北海道)，長谷川亘（国鉄），浅間敏男（国鉄），横道英雄(北大)，赤井 醇（札幌市），大田長四郎(帯広市)，大橋康次(北海道電力)，小野喜活（伊藤組）以上新任。

地区常議員：七田(兼)，和田(兼)，尾崎(兼)

学会誌編集委員：北郷 繁(北大)，岡元北海（開発局）

技術資料編集委員長：古谷浩三（開発局）

終って映画「御母衣ダム」の上映があり，総会を終了，参会者約40名。

◎関西支部

（1） 第12回幹事会（36.4.24，大阪建設会館）出席者：小西幹事長，伊藤（冨），石田，岡田，小林（代森下），宮崎，毛利，大村，中川，打田の各幹事。

（2） ギヨン氏特別講演会（36.4.21，中央電気倶楽部）参加者100名。

講演会次第

1. 開会挨拶

プレストレス コンクリート技術協会長　坂 静雄氏

2. 講演題目

最近のプレストレスト コンクリートの構造物について

国際プレストレスト コンクリート協会副会長
仏国 S.T.U.P. 社技師長

ギヨン氏（英語講演）

通訳　国鉄構造物設計事務所　野口 功氏

3. 閉会挨拶　土木学会関西支部長（代幹事）岡田 清氏

◎西部支部

（1） 研究発表会（36.2.24，福岡市九電ビル6階）参加者150名。

研究発表会発表題目

9.00～9.05　開会の辞　土木学会西部支部幹事長　藤村 遵

9.05～9.10　挨拶　土木学会西部支部長　田中 俊徳

1) 9.15～9.35　戦後における建設事業の発展とその生産性について
九大工学部　渡辺 寛治
同　○渡辺 明

2) 9.40～10.00　到達時間を同じにする河川勾配について
九大工学部　○上田年比古
同　中野 昭

3) 10.05～10.25　断層におけるせん断試験の一例
九電KK一ツ瀬建設所　○山口 登
同　宮木 勝三

4) 10.30～10.50　軟弱地盤におけるコルゲートパイプの現場試験
熊大工学部　○吉村 虎蔵
同　川本 眺万
同　平井 一男
九州地建　江崎 正敏

5) 10.55～11.15　佐賀県に最近生じた地割れと河川堤の滑りについて
佐大理学部　高田 京一

6) 11.20～11.40　急速砂沪過における砂層損失水頭の変化について
九大工学部　荒木 正夫
同　○仲山雄之助
同　篠原 紀

7) 11.45～12.05　中間ヒンジをもつ円弧および放物線材に不完全剛結性と剛域を考慮した撓角式　九大工学部　山崎 徳也

12.05～13.00　昼食

8) 13.00～13.20 急速沪過池の細菌除去率について
九大工学部　荒木　正夫
同　仲山雄之助
同　○篠原　紀

9) 13.25～13.45 水田用水から見た耶馬台国
熊大工学部　藤芳　義雄

10) 13.50～14.10 連続くり返し平板載荷試験装置の試作とその性能（スライド使用）
九大工学部　山内　豊聡

11) 14.15～14.35 洞海港における設計波の推定について
運輸省第四港建　尾崎　重雄
同　○三根　昭吾

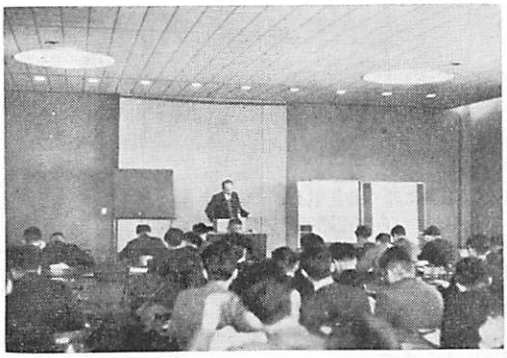
12) 14.40～15.10 日向神ダムについて
矢部川総合開発事務所　室井　勝利
八木山ダム工事事務所　○小川　博

13) 15.15～15.35 若戸大橋の上部工架設計画について
日本道路公団若戸橋工事事務所　乙藤　健一

14) 15.40～16.00 大阪境地区における鋼杭（摩擦杭の打込みについて）
八幡製鉄土木部　広田　兼賀
同　○田上　廣

15) 16.05～16.25 －10 m Z型鋼矢板岸壁について
運輸省小倉調査設計事務所　藤野　慎吾

研究発表会状況



16) 16.30～16.50 ソ連式振動杭打機（VP-1）による長尺軽量鋼矢板の打込試験について（うち映画 10 分）
鋼管基礎工事KK技術部　三木　森雄

16.55～17.00 閉会の辞　土木学会西部支部幹事長　藤村　達

（2） 支部総会（36.3.16，福岡市町村会館4階ホール）出席者 86 名。

総会次第

1. 記念講演
（1） バベルの塔とターンパイク　九大工学部　工博　松尾　春雄
（2） 公共事業と補償　九州地建河川部長　樺島　正二

2. 総　会
（1） 開会の辞
（2） 支部長挨拶
（3） 事業報告
① 昭和 35 年度事業報告　② 昭和 35 年度会計報告
③ 役員改選結果報告
（4） 新支部長挨拶
（5） 閉会の辞

3. 映画および懇親会
久里浜火力発電所建設工事（天然色）　鹿島建設KK提供
真管式基礎工事（天然色）　〃

（3） 役員改選の件：36年度西部支部役員は次のとおり決定した。

支部長	田中寛二	日本道路公団福岡支社長	改選
常議員	河角鶴夫	九州地建企画室長	〃
〃	武田武男	九電土木部計画課長	留任
〃	篠原謹爾	九大工学部教授	〃
〃	高橋淳二	第四港建建設局長	改選
〃	藤村　達	福岡県土木部道路建設課長	〃
〃	春成　正	国鉄西部支社調査役	留任

（4） 支部所在地変更
新住所　福岡市上呉服町20　第一生命館4階　日本道路公団福岡支社内　TEL 福岡③ 8631

豆　知　識

土木技術者ならば三角関数といえば，ああ sine, cosine かとすぐわかるわけです。ところが真数表を引いて出すか，計算尺で出すので一寸やっかいなしろものです。精密を要する時は別ですが簡単に現場でおぼえて使用するには次の一つを記憶しておけば，あとは cosine は $\sin^2\theta+\cos^2\theta=1$ で出せるし，tangent は $\tan\theta=\dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$ で出せばよいので，sin を一つおぼえることです。$\sin 6°=0.1$，$\sin 12°=0.2$，$\sin 18°=0.3$，$\sin 24°=0.4$，$\sin 30°=0.50$ ですから非常に簡単です。$\sin 30°$ までわかれば $\sin 45°=\dfrac{1}{\sqrt{2}}=\dfrac{1}{1.414}=0.707$ ですから三角関数は全部わかることになります。

$\sin 6°=0.1$，$\sqrt{2}=1.4142$（ひとよひとよに），だけ知っていればよいわけです。誤差は大体 2～5％くらい（真数の方が大きい）ですから，その程度の精密さでよければ大いに利用できるでしょう。　【編 集 部】

近刊紹介

土木工学とは直接関係はないが，一読をおすすめしたい近刊図書の二，三を紹介する。

○技術論文の書き方　塩沢・宮川訳
Successful Technical Writing, by T.G. Hicks. (1959), McGraw-Hill Book Co. Inc. の飜訳で原著は米国機械学会からも推せんされている（丸善：学灯 1961.3, pp 7～10 参照）。技術記事，学術論文，報告書，ニュース，取扱い説明書，訓練書，カタログ，広告，書籍など広範囲な内容にわたり執筆に必要な条件を箇条書きにし，科学関係記事を〝正確に，わかりやすく〟書くための例題がかなり豊富に引用され「書ける技術者」の有利点を力説している（B 6 判 p. 400，近代科学社刊 **650 円**）。

○仏和理工学辞典　日仏理工科会編
菊池真一氏（東大生研・応用化学）を委員長に 33 名の理工科系の若手グループによって編集された辞典であり，土木関係は井口昌平氏（東大生研）が担当されている。一般の仏和辞典では間に合わない約 38 000 語の術語を収め，各部会で制定された訳語を簡潔につけた労作である（B 6 判 p. 484，白水社刊 **1 500 円**）。

○印刷ユーザーガイド　印刷学会出版部編
印刷の全般にわたる注文主むきの本として企画されており，印刷・製本・用紙・印刷物の製作など豊富な例を中心にわかりやすく解説し，眺めながら理解させてゆく方法で親切に編集されている。執筆者にとってもよき資料が得られよう（B 4 判 本文 p. 203，付録 p. 100，印刷学会出版部刊 **1 200 円**）。

註：なお上記3点とも学会にあります。【編 集 部】

編集後記

「目に青葉」の季節になった。したたるばかりの新緑をバックに，土木構造物がもっとも美しく見えるときである。ひごろは土木の何たるかを解しない都人士も，ドライブやハイキングの道すがら，たんたんと続く舗装道路や，峡谷をひとまたぎにするアーチ橋，さては巨大なボリュームを誇示するダムなどの姿に目をみはる機会が多いことである。

それにつけても「土木」に対する社会の認識が，今日なお決して十分といえないことを想起しないわけにはいかない。ひとくちに土木建築というが，建築の分野では技術に対する保護が「建築士」などの制度で法的にも一応行なわれており，その職業あるいは作品に対する社会的評価はかなり高いものといえる。土木と建築の社会の認識の相違の中には，土木技術のもつ本質的な要因があることは否めないが，また，おたがい土木技術者の自覚ないしは団結によって改善される面も多いことと考えられる。

われわれの生きている時代は技術革新時代である。土木の分野でも施工機械や技術の発展は日新月歩であるが，それらを駆使する人間の頭の近代化がこれにともなっているであろうか。社会の各分野に対する展望や理解に欠ける点がないであろうか。それよりもまず，封建制の残りかすである官尊民卑の悪風が，いまだに土木界を根強く支配しているのではないだろうか。この悪風がとりわけ土木学会に強く残っているということはないであろうか。

本号には佐藤吉彦氏の「土木工学とは何か」がのせられている。これに対する御批判もふくめて，おたがいに土木工学と，これにたずさわる者の発展向上の道を考えてみたいものである。

【谷田沢・記】

46巻6号内容予告

次号には次のような記事を予定しております。7月号は総会特集として増大号となりますから御期待下さい。

報　告　斎藤・横山：紀勢線の全断面掘削
報　告　広田兼賀：八幡製鉄所の工場排水について
報　告　比田　正：東京湾における港湾計画について
解　説　安芸・丸山：地盤沈下にともなう諸問題
解　説　富樫凱一：昭和36年度建設省関係公共事業予算について
海外事情　横沢富三郎：ペルーの電源開発調査と技術協力について
研究所めぐり　鈴木重松：北海道土木試験所紹介（研究所めぐり完結）
講　座　斎藤迪孝：地盤改良工法（3）—排水による地盤改良工法—

なお現在皆様の御協力によりかなりの原稿を確保することができ執筆者各位に厚く御礼申上げますとともに，少しでも早く登載するべく努力中です。編集関係事務の一切は土木学会編集部で扱っておりますから御連絡下さい（担当者：岡本，石塚，阿部）。

カラー口絵写真御提供の御願い

46巻4号（前号）に西松建設KKの御厚意により学会誌としては始めてカラーの口絵をとりあげました。種々の理由で出来ばえは余り上等とは申せませんでしたが，今後は十分注意して印刷したいと考えております。このページの御利用については直接，土木学会編集部（351—5138番）へお問合わせ下されば詳細ご説明いたします。

会員入退会について（昭和36年4月1日～4月30日まで）

1.	入　会	134名	（正 52，　学 74，　特1D 8）
2.	復　活	11名	（正）
3.	転　格	416名	（卒業学生転格　正 +416　　学 −416）
4.	退　会	44名	（正 41，　学 1，　特1D 2）
5.	死　亡	3名	（正）

会員現在数（昭和36年4月30日現在）

名誉	正員	学生員	賛助	特級	特1A	特1B	特1C	特1D	特2	計	（増）
31	13 076	798	30	10	11	26	130	222	14	14 348	(98)

正員	坂田昌亮君	熊本県荒尾市長	昭和35年12月24日	死去　71才
〃	岡村雅夫君	愛媛大学教授	昭和35年5月30日	死去　66才
〃	中村孫一君	元土木学会書記長	昭和36年4月10日	死去　75才

昭和36年5月10日印刷　昭和36年5月15日発行　土木学会誌 第46巻 第5号
印刷者 大沼正吉　印刷所 株式会社 技報堂　東京都港区赤坂溜池5番地
発行者 末森岳雄　発行所 社団法人 土木学会　東京都新宿区四谷一丁目（外濠公園入口）
定価 200円　振替 東京 16828番　電話 (351) 5130・5138・5139番